

学校からはじめよう！エコタウンづくり

えどがわエコセンターと共育・協働で環境学習を推進するモデル校

令和4年度
グリーンプラン推進校
活動報告書



認定NPO法人 共育・協働の環境づくり

えどがわエコセンター

1. グリーンプラン推進校について

グリーンプラン推進校とは、江戸川区の共育・協働の理念にもとづき、学校(幼稚園)における環境学習を推進するモデル校のことです。

えどがわエコセンターから各種情報の他、資材などの経費を提供し、学校における環境学習が充実するよう支援をしています。一年間環境学習に取り組んでいただいた後、活動内容をホームページや報告書などでPRしていきます。

グリーンプラン推進校の参加メリット

- 環境学習活動費として、各校「5万円」の助成が受けられます。
- えどがわエコセンター「環境学習プログラム」の中から、無料で「出前授業」を受けられます。
- えどがわエコセンターホームページで活動内容を紹介します。
- 他校の環境学習の活動状況等を知ることができます。
- 環境学習に関する様々な情報が得られます。

条 件

- 対象は江戸川区立の幼稚園・小学校・中学校です。
- 年度当初に、総合学習の年間計画や出前授業等について伺います。
- 実施報告書・会計報告書の提出や報告会への参加をお願いします。
- えどがわエコセンターへの会員登録をお願いします。

2. えどがわエコセンターについて

えどがわエコセンターは、区民・学校・商店街・事業者・行政や環境団体等と連携し、『環境にやさしいまち・エコタウンえどがわ』を目指しています。地球温暖化防止やごみ減量の普及啓発、自然体験や調査活動など、様々な事業を展開しています。

えどがわエコセンターでは、区民や団体と一緒に色々な活動に取り組んでいます。

- 地球温暖化防止・・・脱炭素社会づくりに関するイベント・講座など
- 資源循環・・・フードドライブ事業、おもちゃの病院など
- 自然環境保全・・・河川・海岸の保全、東なぎさクリーン作戦など
- 環境教育・人材育成・・・小中学校出前授業、すくすくスクール放課後環境教育
エコアクション講座、エコカンパニーえどがわの推進など

3. 令和4年度グリーンプラン推進校

小学校（17校）

小松川小学校	西一之江小学校	大杉小学校	大杉第二小学校
第三松江小学校	第二葛西小学校	清新ふたば小学校	瑞江小学校
新堀小学校	下鎌田小学校	鹿骨小学校	篠崎小学校
篠崎第二小学校	南篠崎小学校	上小岩小学校	南小岩小学校
北小岩小学校			

中学校（3校）

松江第二中学校 松江第五中学校 小岩第五中学校

目 次

活 動 報 告

小松川小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 3
西一之江小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 5
大杉小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 7
大杉第二小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 9
第三松江小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 11
第二葛西小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 13
清新ふたば小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 15
瑞江小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 17
新堀小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 19
下鎌田小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 21
鹿骨小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 23
篠崎小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 25
篠崎第二小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 27
南篠崎小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 29
上小岩小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 31
南小岩小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 33
北小岩小学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 35
松江第二中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 37
松江第五中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 39
小岩第五中学校	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 41

学校名	小松川小学校	対象学年と人数	5年：59名 4年：57名
活動名	日本らしい自然の緑の再生		
指導者	学内指導者：鈴木郁 林佑磨 川西雄輝 上田祥世 学外支援者：東京大学大学院農学生命科学研究科 根本正之先生 日本生態系協会 埼玉県生態系保護協会 堂本泰章先生 （役割分担）総合的な学習の時間のまとめの授業		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

生物多様性の保全が言われる昨今、小学校付近のわずかな緑は、造園樹木や園芸草花など人工の緑ばかりです。現代の子供たちの日常生活の中で、生物多様性に富んだ日本らしい自然を体験する場を提供したいと考えました。小学生児童が主体となって、日本の在来植物を再生する活動を行います。

成果

秋の七草のカワラナデシコは、絶滅が危惧される植物です。今の5年生がお世話をしたカワラナデシコを4年生が引継ぎ、夏休みに一人一株ずつ持ち帰ってお世話をしました。荒川中流域にある三ツ又沼ピオトープで長い間保全活動を行い、環境省から自然環境功労者環境大臣表彰をされた菅間宏子先生からたくさんのお話を教わってきました。2011年に荒川上流域にある大麻生公園のカワラナデシコの種子を菅間先生からもらい、荒川下流域の小学生児童が増やしてきました。今年度は埼玉県生態系保護協会のご協力もあって、川島町立つばさ北小学校とつばさ南小学校に、小松川小学校児童の育てたカワラナデシコの植木鉢を渡し、3校同時にオンライン交流会を行いました。その後、小松川小児童5年生が荒川中流域の太郎右衛門自然再生地へ行き、カワラナデシコを移植することができました。菅間先生の『上尾とその周辺の植物』の本を読むと、上尾周辺でカワラナデシコは見られなくなったことがわかります。「いつの頃だったか、気がついて探してみても、一本として見つけることができなくなっていた。それも50年前のこと」。小学生児童がカワラナデシコの育て方を引き継ぎ、日本らしい自然の緑を再生しています。

感想・課題等

小学校児童と地域による、強害外来植物除去による自然再生は、多くの地域で試みられてきました。しかし、毎年草取りを続けても、強害外来植物が容易になくならないのが現状です。また強害外来植物の除去だけでは、在来植物が自然に生えてくることはなかなかありません。そこでこの活動では、地域の緑に日本らしさを感じなくなった都会で、小学校児童が自らの手で在来植物の芽生えから観察と栽培を行い、さらにその苗を「汐入方式」で移植し、昔は東京でも誰もが身近に見たり遊びの対象にしたりした、生物多様性に富む「日本らしい自然」の再生を目指しました。目標とする日本らしい自然とは、東京大学大学院生命科学研究科の根本正之博士が提唱する「人間による自然の『受け入れ』『管理』『改変』の三つがほどよく調和していた空間」です。実際に行った「汐入方式」は、強害外来植物の生えている草地でそれを除去した裸地（ギャップ）に、あらかじめ育てておいた地域苗を植え込む仕方です。長期計画（2～3年）で行えば、児童自ら体験しつつ「日本らしい自然」を取り戻すことができます。実際にこれまでの活動で、東京都の学校の校庭や河川堤防でも、多くの在来植物が見られるようになってきました。必ず関東河川流域から採取した在来植物を移植することで遺伝子攪乱を起こさないようにすることが課題です。移植した在来植物は、年を重ねるにつれ個数を増やし、大きく立派に育っていきます。



小松川小学校のこれまでの活動について、こちらのQRコードから動画をご覧ください。



6月、昨年度の4年生が採取したナデシコの種子を苗にし、全校児童が牛乳パック植木鉢に植え替えをした。



育苗箱でカワラナデシコの種子を発芽させる。



9月に、オンライン交流会を3校で行った。



11月に、荒川中流域の太郎右衛門自然再生地で、小松川小学校児童の育てたカワラナデシコを移植した。

学校名	西一之江小学校	対象学年と人数	全学年：701人
活動名	身近な自然に触れよう 大切にしよう/「エコ」へむけての取組み		
指導者	学内指導者：校長 川浦孝彦 他 全教職員 学外支援者：江戸川区役所緑化推進係、公園ボランティア（4年公園整備）、学校応援団、PTA イクメンジャー（カブトムシの育成）、小松菜農家さん		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 身近な自然に目を向け、自然を大切にしていこうとする気持ちを養う
カブトムシの育成・飼育委員会のカメの飼育とプランターづくり
近隣の公園の整備・各学年の花壇活動と栽培（小松菜・へちま・ゴーヤ・米・芋・プランターの植物栽培）
- ごみを分別し再利用・再活用することや節水などで環境にやさしくできるように生活する

成果

- 3年生と飼育委員の児童を中心に、カブトムシの世話をを行った。年度初めに、学校応援団、PTA イクメンジャーと共に、カブトムシ小屋の整備を行い、1,672匹の幼虫が育っていることを確認した。飼育委員はカメの飼育の中で、低学年の児童と関わり、カメ池の清掃やプランターの育成を行った。その活動の中で、カブトムシ小屋から出る糞や腐葉土を肥料として学年の花壇の土やプランター土にすきこんだ。糞や腐葉土は、野菜や花を育てるための大切な肥料として活用できること、自然の様々な事象は循環していることを、活動を通して学ぶことができた。
- 各学年とも、学年花壇で植物を育て、身近な自然に触れることができた。3年生では、小松菜農家を訪ね、小松菜の育て方を学習するとともに、花壇で小松菜の種をまき育てた。4年生は6月と12月に近隣の公園に出かけ、公園の花壇の花の苗の植替えを行った。近隣に広がる農家に目を向け、地域のボランティアの方と一緒に行動し、地域の自然へも目を向けられた。5年生は、えどがわエコセンターの環境学習プログラムを行った。地球温暖化防止のために自分たちが日ごろから取り組めることについて考えることができ、身近な自然の大切さに気付くことができた。
- エコ委員会の児童と用務主事を中心に、ごみの分別の徹底を行った。ダンボールの細かいものはテープなどを取り外して、再生可能な状態にすることを全校で共通理解して行うことができた。

感想・課題等

- 学校内の自然から地域の自然環境へ目が向くようになり、大切にしていこうとする気持ちが育った。また、毎年継続している活動については、引き継いでいきたいという気持ちが継続し、持続可能な社会に向けての意識を高めることができた。活動の時期が限定されてきがちであるので、継続できるよう見直していく。
- 児童が、ごみの分別や水を大切に使うことなどの日々の取り組みを継続することで、環境にやさしい生活を意識していくことができてきている。更に、児童の中に定着できるよう工夫を重ねていく。

カブトムシ小屋の整備：越冬したカブトムシの幼虫をカブトムシ小屋の土の中から掘り出し、飼育のケースに移す作業を行う。その時、カブトムシの糞や土をふるいにかけて糞と土を分けて、肥料になるところは、学級花壇に入れ込んで、植物を育てている。



小松菜農家の見学：3年生が小松菜農家を訪ね、ハウスの中の土や農機具の様子を見学し、実際に触って小松菜栽培の実際を知ることができた。

松江公園の苗の植替え：4年生が近隣の松江公園で江戸川区役所緑化推進担当の方や地域の方々と花壇の花の苗の植替えを行った。



環境教育プログラム：5年生が6月24日（金）に実施。地球温暖化防止のために日ごろから取り組めることについて考えることができた。

5・6年生のエコ委員会の児童が、清掃時にごみを収集する場所に立ち分別の確認をすることやエコパトロール・ポスターの掲示などで意識が高まっている。



学校名	大杉小学校	対象学年と人数	5, 6年生（委員会）
活動名	大杉小緑化計画「みどりいっぱいになあれ！」		
指導者	学内指導者： 村方友一朗教諭 早川夏音教諭 久保田秀樹副校長		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 大杉小をみどりでいっぱいにする。
- 環境にやさしく、心にもやさしい学校づくりをする。
- 委員会の活動を通して、協同作業の効率化を図りながら、学校美化の精神を培う。

成果

- 校庭内の花壇が見違えるようにみどりでいっぱいになり、学校公開や開放団体の方々からも、おほめのことばをいただいた。子供たちも、話題にしていた。
- 廊下のグリーンコーナーも定着し、子供たちが落ち着いて学校生活を送る一助となっている。
- 防球ネットの一部を毎年緑のカーテン化することで、目にも心にもやさしい環境が整い、心がやすらいだという声が多く聞かれた。

感想・課題等

- 委員会活動としての取り組みも定着してきているものの、委員会活動内にとどまらず、学校全体としてかかわらせるような工夫がほしい。
- 昨年度の委員会活動計画を引継ぎ、スムーズに活動を始めることができた。今後は、さらに充実するよう、そのノウハウの引継ぎも含めて継承していきたい。
- 計画的な活動ならびに効率的な作業と、予算を上手に生かせるよう、教職員からのアイデアや要望等、検討して次年度に生かしていくようにする。

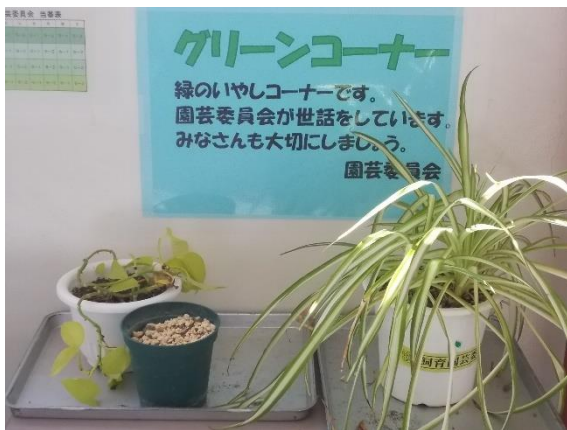
1. 緑のカーテン（ゴーヤ）



2. 花壇のひまわり




















3. 廊下のグリーンコーナー



4. 花壇のチューリップ



学校名	大杉第二小学校	対象学年と人数	全校児童
活動名	自然を大切に！スギニアースレンジャー！ ～身近なところからSDGsを実現させよう～		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：PTA お掃除し隊ボランティア （役割分担）校庭の清掃活動		

 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○
 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- SDGsの概要について知るとともに、現代の問題について自分たちで出来ることを考え、行動する。
- 学校農園などでの栽培や飼育活動、日々の学習を通して、身近な自然と触れ合い、自然体験を通して、環境問題について関心を高める。
- 委員会活動やボランティア活動を通じ、環境を守り、育てることのできるリーダーを育成する。

成果

- 代表委員の児童は SDGs に真剣に向き合い、主体的に全校児童への日々の学校生活の改善を呼びかけるリーダーとしての資質が高まった。節電・節水・紙を無駄にしない活動やリサイクル・ペットボトルキャップの分別回収・テープの巻きしんを集めて植樹する団体への協力について、ポスターや動画で呼びかけた。また、SDGsの目標について解説したり、よい行動について紹介したりした。
- 学年園では、1年アサガオ・チューリップの栽培、2年さつまいも・ミニトマトの栽培、3年ひまわり・ほうせんか・マリーゴールド・小松菜の栽培、4年ゴーヤの栽培（緑のカーテン）、5年いんげん豆の栽培、6年ジャガイモの栽培をした。児童は、栽培活動を通じて、植物の成長や、それらに集まる昆虫の生態などに関心をもち、愛着をもって観察をしたり、育てたりすることができた。
- 3年は江戸川区の自然やプールに集まってくる生き物について学習発表会で発表した。5・6年生は総合的な学習の時間で校内での取り組みが SDGs のどの目標とリンクしているのか、自分たちには何ができるのか考え、タブレット端末を用いてクラスで発表を行った。
- 飼育栽培委員会では、人権擁護委員の人権啓発運動の一環である「人権の花」をプランターに植えたり、近くの保育園児と一緒に公園にひまわりを植えたりする活動を行った。
- 給食委員会は、SDGsの17の目標の中から「2 飢餓をゼロに」「13 気候変動に具体的な対策を」などの観点で、毎年残飯調査を行い、食品ロスをなくすための活動を行っている。

感想・課題等

- 学習や特別活動を通して、児童がSDGsについて知り、興味・関心をもつ機会を多く設けることができた。児童の自然愛護の精神を育む良い機会となるため、来年度も引き続き取り組む価値があると改めて感じた。

【人権の花】



プランターと土と種をもらう



植えて水をやる



人権メッセージ付きのプランター

【学校での活動】



河川敷に虫探し



江戸川区の花(つつじ)を紹介



ヤゴ先生と「よし」を刈った先生



ツルレイシで緑のカーテンを作る



ボランティアで校庭の落ち葉拾い



園児たちとひまわりの種を植えた







【職員室前のSDGs 掲示板】



掲示内容

- ・本校の活動名
「自然を大切に！スギニアースレンジャー！」
～身近なところからSDGsを実現させよう～
- ・毎月のSDGs 目標を大きく掲示
- ・過去のSDGs 目標を縮小して掲示
- ・SDGs Month in EDOGAWA ポスター
- ・巻き芯回収ボックス
- ・代表委員会だより
- ・ユニセフからの感謝状
- ・活動のキャラクター（スギニアースレンジャー）

学校名	第三松江小学校	対象学年と人数	全校児童（環境委員会 20名）
活動名	みんなでSDGsを進めよう		
指導者	学内指導者：全教職員、環境委員会担当		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 環境委員会を中心に取り組んでいるエコ活動が、SDGsの取り組みに結びついていることを知る。
- 身近な場面での行動を見直し、SDGsに取り組もうとする意欲を高める。

成果

- リサイクル活動（ペットボトルキャップ回収、セロハンテープ等の巻き芯回収、JES シューズ回収）がどのような目的で行われているかを周知することができた。
- 土づくりから始まり、環境委員会が植えた花を、みんなで守り育てようという雰囲気広がった。
- フウセンカズラでグリーンカーテンを作り、校内に緑の環境を増やすことができた。

感想・課題等

- 環境委員会を中心に掲示物や発表を工夫したが、キャンペーン期間を設ける等、活動の幅を広げていきたい。
- ペットボトルキャップ回収は、校内だけではなく、地域の協力も見られる。大量に集まったキャップの行く先を掲示等で周知できるようにしたい。
- 次の段階として、出前授業・放課後環境教育等、外部講師を招いての環境教育に取り組んでいきたい。
- グリーンカーテンをさらに増やしていけるように、計画を立てる。
- もったいない運動の、電気・ガス・水道の校内使用量は、目標値に達していない。さらに意識を高めて、もったいない運動に結びつけていきたい。

【環境委員会の活動】



【花の苗を植える活動】



【グリーンカーテンを来年につなげるために】



【各学年畑の充実】



学校名	第二葛西小学校	対象学年と人数	4年生152名 おおぞら学級28名
活動名	学校自然いっぱい運動		
指導者	学内指導者：麻生 雄介 柴田 歌苗 五十嵐 瑠美佳 原 豊 黒川 明子 松本 夕希乃 梁 享弘 下川 諒 佐野 美穂		

			 ○					
			 ○		 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 校内にグリーンカーテンをつくったり、田んぼに稲をうえたりすることで、自然環境を整える。
- 校内の環境を良くしようという意識を高める。
- 4年生の理科を中心に、児童の自然愛護の意識を高める。
- 校内の環境を自分たちで計画的に整えることで、母校への愛着を高める。

成果

- 校内の環境が整備されたことで、児童が過ごしやすく気持ちの良い環境をつくることのできた。
- さらに他の事でも校内の環境を良くしていきたいという意識が芽生えた。
- 4年生やおおぞら学級の児童がお世話係や水やりなど、自分たちで考え主体的に活動することができた。
- 苗木を植えたり、たくさんの種類の苗木を育てたりすることで、植物の種類や世話の仕方についての知識が増えた。
- 他の学年の児童も興味をもち、自然に対する意識や学校の環境を整えようとする意識が高まった。

感想・課題等

感想

- 田植えはたいへんだったけど、大きく緑に育っているのを見て、うれしかった。
- ゴーヤが大きくなるのがうれしかったけど、あまり大きくならなかった。環境によって成長が違うことが分かった。
- 稲からお米をたくさん収穫できたと思ったのに、食べられる量は少ないと思った。
- 学校に植物が増えたおかげで、学校が明るくなった。

課題

- ゴーヤを育てる場所の日当たりが悪く、思うように育たなかった。
- 夏休みの水やりを継続することが難しかった。
- ゴーヤや田植えの知識が少なく、ゴーヤの育て方や稲の収穫の時期など、分からないことが多かった。
- タブレットを活用した観察や撮影が有効だったので、早いうちから記録方法として活用すれば良かった。
- 次年度は、さらに児童主体の活動にしていきたい。



4年生が、ゴーヤの苗を植えてグリーンカーテンをつくりました。



おおぞら学級の児童が、田んぼに苗を植えました。



夏には、田んぼが緑になり、秋に収穫できました。



学校名	清新ふたば小学校	対象学年と人数	4年：83名
活動名	ふたばグリーンプロジェクト		
指導者	学内指導者：福永智子、小川智也、門井百香 学外支援者：葛西海浜公園パートナーズ、えどがわエコセンター		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

葛西海浜公園の自然環境に関わったり、環境を守るための取組を行ったりすることを通して、多様な生物が周辺環境と関わって生きていることを理解し、持続可能な視点から自然環境の在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

成果

江戸川区の魅力を調べていく中で葛西海浜公園と出会い、魅力ある一方で環境問題があることを知ることができた。葛西海浜公園パートナーズやえどがわエコセンターの方々の話を聞くことにより、身近なところでも環境問題が起きているという実感がもてた。環境問題に対して色々な人が協力し合って解決に向かっていることを受け、解決方法考え、ごみを拾う活動を実際に行うことができた。

感想・課題等

「葛西臨海公園」については、行ったことはあるが、その沖にある「葛西海浜公園」に対する認識は非常に低かった。

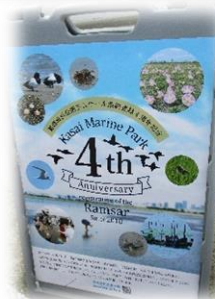
そこで、活動されている方々の願いについて触れる機会を作り、魅力がある一方、そこに抱えている環境問題も身近に感じることができた。

「葛西海浜公園」という身近な題材で環境問題を扱うことにより、子どもが自分事として問題を捉え、主体的に問題解決に向けた学習ができるようにした。その中で、地域のために活動する方たちと関わる経験をしながら、自分たちの生活する地域への思いや願いを育み、相手の考えを尊重しながら自分たちができることを実際に行動に移すなど、協働的に問題解決する力も身に付けさせていきたいと考えている。

葛西海浜公園見学の様子



えどがわエコセンターの方のお話を聞く



清掃活動の様子



学校名	瑞江小学校	対象学年と人数	1年生：68名 飼育委員会（5～6年）
活動名	どんぐりでおもちゃをつくろう 観察池のいきものを調べよう		
指導者	学内指導者：吉田拓司 石坂勇樹 田中園子 学外支援者：エコセンター 中嶋様 長田様		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

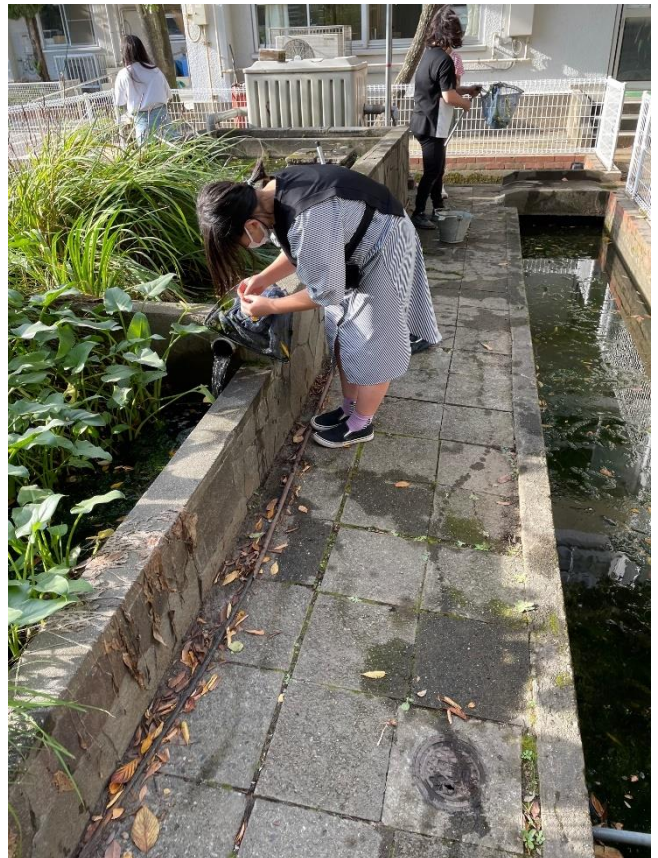
- 身近にある植物を通して自然について親しみをもつ。
- 観察池の掃除や観察などを通して、身近な自然と触れあい、環境を大切にする態度を高める。

成果

- 子どもたちが集めたどんぐりの形や大きさから様々な種類があることを知り、どんぐりを使ったおもちゃ作りを通して自然に親しむことができた。
- 飼育委員会で、毎日観察池の掃除を行い、池の生き物と触れ合った。6月には、プールのヤゴ救出作戦を行い、救出したヤゴを観察池に放した。委員会の時間には、観察池の生物調査（種類・生息数の調査）を行い、生きものへの理解を深めた。

感想・課題等

- 興味をもって生き物の飼育や観察をする児童の姿が多くなった。池の生物調査を行い、生息している生き物の名前を教えていくことで、環境や生き物に対する児童の興味関心が高まった。このような活動を今後も続けていきたい。
- 学外支援者に学校に来て授業をしていただくことで、児童はもちろん、教師も大変勉強になった。今後も、外部の方と連携して環境学習を進めていきたい。
- 観察池の環境改善がもう少しだと感じた。増えすぎた水草やアオミドロの対策を今後も継続していく必要がある。
- 飼育委員会が中心となった活動であったため観察池の活用を他学年でもできるように計画していきたい。



学校名	新堀小学校	対象学年と人数	4年生：60名 5年生：75名 保健環境委員会：15名
活動名	新堀小グリーンプラン		
指導者	学内指導者：4年担任・5年担任・保健環境委員担当 学外支援者：えどがわエコセンター脱炭素社会づくり委員会（みどりのカーテン） 東京ガス（株）学校教育情報センター（はじめよう！エコクッキング） 新堀小グリーンプラン（保健・環境委員会花植え活動）		

			 ○					
					 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 地球温暖化など、ひろく環境問題について知り、みどりのカーテンの様々な効果を理解し実践する。
- 環境のことを考え、食を通してできる省エネ・省資源について学び身に付ける。
- 身の回りにある自然に触れ、自然の素晴らしさを感じ、大切に作る心を育てる。

成果

○みどりのカーテン（4年生）

地球温暖化などの話を聞き、環境問題を知ることができた。みどりのカーテンが地球温暖化にどのような効果をもつのかを理解し、また、その育て方などを学ぶことによって、植物が育つための環境や必要な活動について実践することができた。

○はじめよう！エコクッキング（5年生）

地球環境と食生活の関わりについて学び、地球環境にやさしいエコクッキングを実践した。今まで野菜は皮をむいていたが、きれいに洗えば皮までおいしく食べられることが実感できた。また、エネルギーを上手に使うための火加減や、節水と排水を汚さない洗い方など、家庭でできるちょっとしたエコを知ることができた。

○花とみどりの新堀へ！（保健環境委員会）

保健環境委員会では、花とみどりいっぱいの新堀小にするために、花植え活動に取り組んだ。児童のみならず、保護者や地域の方々、通りすがりの方が見ても「花とみどりの新堀小」と感じられるよう、季節ごとに様々な花を植えた。休み時間には委員会以外の児童も花に水をあげるなど、たくさんの児童にとって花やみどりが身近に感じられ、植物に親しむ機会になった。

感想・課題等

- みどりのカーテン・エコクッキングともに環境問題について考えさせる良い機会になり、実践するためのヒントをたくさんもらうことができた。
- 委員会の時間内では、花を植えることに終始してしまい、植え方や肥料、水のあげ方などについて考えさせる時間が取れなかった。

〇みどりのカーテン（4年生）



なるほど！
ゴーヤの茂った葉が日光を
遮って室内温度の上昇を抑
えてくれるんだね。



早く大きくなあれ！



〇はじめよう！エコクッキング（5年生）



食材を丸ごと使う工夫・エネ
ルギーを上手に使うこと・洗
い物で気を付けることなどな
ど、たくさん学びました。



カラフル野菜スープ
大成功！！



〇花とみどりの新堀へ！（保健環境委員会）



植えたばかりの花壇も、
春にはこんなに
きれいになります！！



まずは土づくりから行いまし
た。植わっていた枯れた花を
抜き、土を掘り返します。

学校名	下鎌田小学校	対象学年と人数	1・2・4・5年生
活動名	下鎌田小学校の自然を大切にしよう		
指導者	学内指導者：各学級担任 学外支援者：えどがわエコセンター自然共生社会づくり委員会 学校応援団 安全な土づくり隊		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 校内の畑や花壇を整地したり、食物を植えたりして、自然環境を整える。
- 身の周りの自然と触れ合い、自然愛護の意識を高める。
- 身の周りには自然にあふれていることに気付く。

成果

- 畑の整地を行うことで、自然環境が整い、食物の成長の様子が観察しやすくすることができた。
- 身近な自然との触れ合いの中で、小さな命をもっと大切にしようという意識が芽生えた。
- 普段あまり自然に触れない児童や苦手意識をもっている児童も触れ合うことができ、自然に興味をもつことができた。
- 複数の植物が成長することで、成長過程や葉、実の付き方の違いに気づくことで、ほかの植物も育てたいという意欲につながった。
- 出前授業を通して、校内だけではなく、身近にある公園にもたくさんの自然があることを知ることができ、もっと詳しく観察したいという意識につながった。

感想・課題等

感想

- 物品を購入するための予算をいただいたことで、植物環境を整えることができた。
- どの学年の児童も楽しんで活動に取り組むことができ、今まで苦手意識があった児童も少し触ったり近づいたりして観察しようという気持ちをもつことができた。

課題

- 出前授業後に、児童が学んだことを活かして観察を行う場面を設定することができると、より良い学びになった。
- 児童主体の活動を予定しており、概ね主体的な活動にすることができたが、一部、天候や行事等の関係で教員主体になった場面があった。

グリーンカーテンの水やり



グリーンカーテンの水やり



花壇の土おこし



チューリップの水やり



チューリップの球根植え



学校名	鹿骨小学校	対象学年と人数	3・4年生 計53名
活動名	鹿骨小花いっぱい運動		
指導者	学内指導者：中村 智彦 田中 直美 学外支援者：首代 稔子		

								
	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○	 ○		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 校庭や校区内の歩道脇、新中川の土手にある花壇を整備したり、花の種まき・摘み取りをしたりすることで、自然環境保護の意識を高める
- 地域の環境保護に関わることで、地域への愛着を高める

成果

- 花の種類や咲く時期を意識するようになった。
- 種のまき方や水のやり方を友達と工夫しながら取り組んでいた。
- 地域の環境をよくしよう（花がある町にしよう）という意欲につながった。
- 花壇を整備することで、「緑を大切にしよう」「ポイ捨てをしないようにしよう」などの環境美化への意識が高まった。

感想・課題等

【児童の感想】

- 散歩をしている方に、「楽しみにしているよ。」と声をかけられて、うれしかった。
- 自分たちが育てている花を家族と見に行き、うれしかった。
- 地域をきれいにしようという活動に参加しているという気持ちももてた。
- 植物にも命があり、命を大切にしようと思った。

【課題等】

- 校外のため、生育途中のお世話をする時間がなかなか持てず、地域の方に任せたままになってしまった。
- 打合せはしっかりと行っているが、実際の準備から生育、摘み取りの作業まで、地域の方にお任せになっており、負担をかけている面がある。
- 種まきや花が咲いたときなど、活動の様子を広く知っていただけるように、区や学校のホームページ等で積極的に紹介していけると、さらなる活動の充実や活動意欲の向上につながると思う。



地域の方に寄付していただいた花の苗を、思い思いにプランターに植えて校庭を彩る「花の寄せ植え活動」は、児童が毎年楽しみにしている、鹿骨小学校の伝統的な恒例行事です。

「校庭だけではなく、地域も花でいっぱいになりたい」と、学校近くの歩道の花壇にも花の苗を植えました。

地域や沿道を通る方々に、この花を見て、「すてきだね」「鹿骨は、花の町だよ」という思いをもってもらえました。



「元気に、しっかりと育つんだよ！」「きれいな花を咲かせてね！」という思いを込めながら、一粒、一粒、ていねいに優しく、種をまきました。

「こんなにたくさん咲いたよ！」「きれいだね！」子供達に自然と笑みがこぼれます。秋には、土手の花壇がコスモスで満開になりました。花を摘み取り、お家の人にもおすそ分けです。

学校名	篠崎小学校	対象学年と人数	全学年：574名
活動名	篠小の「自然と環境を学ぶ活動」		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：篠小学校応援団「農園ボランティア」 (役割分担) 農園での栽培活動の補助		

※該当するSDGsの項目に「O」を記入

目標

- 学校農園等での栽培や飼育活動、日々の学習を通して、身近な自然と触れ合い、自然環境を大切にしている心情や態度を育てる。
- 児童会活動を通して、身近なところから社会的な課題を解決する意識を高める。

成果

- 学校農園で、低学年はサツマイモ、中学年は小松菜・キャベツ、高学年はヘチマ・ジャガイモを栽培した。また、栽培委員会の活動では、トマト・キュウリ・スイカ・イチゴなどを栽培した。小校庭では、鉢やプランターを使って、アサガオやミニトマト、イネ、ハウセンカなどの栽培を行った。児童は、栽培活動を通じて、植物の成長やそれらに集まる昆虫の生態等に関心を持ち、愛着をもって観察をしたり、育てたりすることができた。
- 環境委員会がごみの分別への意識付けをするためのポスター製作や、篠小学園祭では、代表委員がごみの削減・分別・リサイクルへの呼びかけを行ったことで、全校児童のリサイクルの意識を高められ、ごみの量を大幅に減らすことができた。
- 奉仕活動として、全学年で学校周辺のごみ拾い活動を行った。地域に対する美化への意識が高まった。

感想・課題等

- 農園の敷地内に水栓を引いたことで、今まで校舎側から道路を横断してホースを引いていた苦勞が解消された。
- 計画していた全校での農園の草取り活動が、暑さのため中止になってしまった。そのため農園に大量の草が生えてしまい、主事や農園ボランティアの方々に負担をかけてしまった。来年度は、春から秋にかけて、学級ごとに草取り活動を進めるよう、計画を立案していく。
- 今年度も、学校応援団による農園ボランティアの活動ができた。農園での活動を円滑に行うための大きな助けとなった。来年度以降も感染症対策と地域との交流の活性化を両立させていくことが課題である。

【学校農園での活動】



野菜の観察



畑の畝づくり



サツマイモ掘り

【小校庭での活動】



花の栽培・観察

【委員会活動】



栽培委員会



ごみ拾い活動



環境学習

学校名	篠崎第二小学校	対象学年と人数	全学年：299人
活動名	○身近な自然や生き物に触れてみよう 大切にしよう ○身の回りの物を大切にしておみや残菜を減らそう		
指導者	学内指導者：全教職員 学外支援者：えどがわエコセンター（中嶋 美南子先生 長田 千紗都様） チャレンジザドリーム 葛西第二中学校2年生 2名		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 自分の身近な自然に目を向け、地域に愛着をもち自然を大切にしていこうとする気持ちを育てる。
- SDGsの学習を通して、持続可能な社会を作っていく意識をもたせる。
- 牛乳パックのリサイクルや給食完食週間の活動を通して、環境やリサイクルに対する意識をもたせる。

成果

- 1年生は篠崎公園で「虫捕り」を行った。グリーンセンターから講師を招き、前回の推進校の時に購入した虫取り網と虫かごを全員が手にして学校に隣接した緑豊かな公園の自然を体感し、自然に興味をもったり、大切にしたりする気持ちをもたせることができた。
- 5年生は総合的な学習のなかで、SDGsについて調べる学習を行った。各自が興味あるテーマについて調べ、互いに発表し合った。SDGsの掲示コーナーを設け、児童の関心意欲を高めている。
- また5年生は、校内の田んぼを利用してコメの栽培を行っている。田植えと収穫を一人ずつ体験し、コメの成長を観察できた。
- 給食委員会が主体となり学期ごとに「もぐもぐチャレンジウィーク」に1週間、全校で取り組んだ。残菜が減ったことが分かり、完食してごみを減らそうという意識が高まった。
- 一人一人が自分の飲んだ牛乳パックを洗って乾かし、リサイクル置き場に係児童が学級のパックを毎日置きに行っている。紙をリサイクルすることをより身近に感じることができ、「教室で使う紙もリサイクルして使おう」という意識が高まっている。

感想・課題等

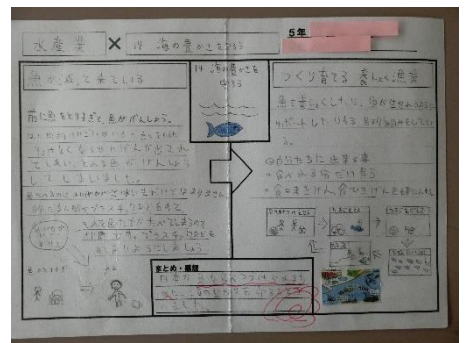
- 篠崎第二小学校は「篠崎公園」に隣接しており、江戸川土手の近くでもある。また地域には小松菜のビニールハウスが残っている自然環境に大変恵まれた学校なので、子供たちは常に自然を体感し、自然を大切にしようという意識が高い児童が多い。
- 「篠崎公園」の大規模改修工事が始まり、今までと同じようには、公園を活用した自然に触れ合う活動が難しくなるが、江戸川土手を活用した校外学習や、校内での栽培活動を通じた生物に触れ合う活動を進めていくことが必要である。



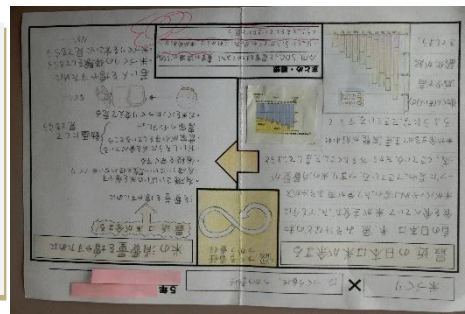
1年生
篠崎公園 「虫捕り」



5年生
コメ栽培 田植え・刈取り



SDGs コーナー
**5年生は社会科の学習とSDGsを
関連付けてまとめました。**



学校名	南篠崎小学校	対象学年と人数	全学年：516名
活動名	緑いっぱい、花いっぱいの南篠小		
指導者	学内指導者：野口直子主任教諭 及び全教職員 学外支援者：学校応援団「農園ボランティア」のみなさん		

		 ○			 ○	 ○		
			 ○	 ○	 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- ・ 校内に植物を増やす活動を通して、植物保護・保全の意識を高めるとともに、学校が緑にあふれることの良さを感じられるようにする。
- ・ 発芽から栽培そして次の世代への連続性を理解し、自然を大切にする気持ちを高める。

成果

- ・ 全校でマリーゴールドの種を植え、栽培する活動を通して、植物への愛着を一層高めることにつながり、マリーゴールドだけでなく、生活科や理科等で活用した植物も大切に育て、学習に生かすことができた。
- ・ 校内に植物が増えていくことで、子どもたちの間で自然と花や生き物についての話題になり、植物への関心が高まった。
- ・ 自然を守ることの重要性を改めて理解し、総合的な学習の時間等の学習に生かすことができた。

感想・課題等

- ・ 1, 2年生は、小麦の栽培活動を生活科の学習を通して行った。1年生が小麦の種をまき、2年生が小麦を収穫し、脱穀等の活動を行ったことで、食糧生産が昔からどのように行われていたのかを具体的に体験することができ、学習の理解につながった。この経験を生かし、今後社会科や理科等の学習で生かされることと期待する。
- ・ 日常的に植物の栽培を目にすることが増え、校庭でもその植物を眺めて話をする児童の姿が見られるようになった。用務主事が植物のお世話をしていると関心を示し、手伝おうとする児童も見られた。
- ・ グリーンプランの予算でポトスの苗を購入し、プランターに入れて校内で栽培することとなった。今まで以上に校内に緑があふれ、憩いの空間ができたとともに、児童がそれを育てることによってより校内緑化の意識が高まっていった。
- ・ 5年生はバケツ稲の栽培を行った。普段から水をあげたり、様子を見守ったりと栽培することの意識が高かった。おかげで社会科の学習において、米の生産に関する理解が高まり、特に農家の食糧生産における工夫や努力について自分たちの活動と結び付けて考えることができた。
- ・ 夏の気温がとても暑く、植物の管理を行う上で非常に苦労をした。

【校庭の活動】



全校児童が種を植え育てたマリーゴールドや主事さんが日々育ててくださっている花々で花と緑にあふれた校庭になりました。

がっこうにさいているはなからたねがとれました



学校に咲いていた花から種を収穫し、花の種類ごとに表にしてまとめてくれました。花によって種の形や大きさが違います。

2年生がプランターにポトスの苗を植え、水をあげてくれました。



1、2年生 小麦栽培体験

1年生
種まき



2年生
小麦の
脱穀



学校名	上小岩小学校	対象学年と人数	3年生：80名、4年生：71名
活動名	上っ子伝統の菊づくり		
指導者	学内指導者：3・4年担任 学外支援者：菊サポーター（3名）		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 伝統の菊の栽培を通して、生命の重さ、大切さを学ぶ。
- 上小岩小学校50周年事業の菊づくり活動を通して、自分たちの手で地域に愛される学校を築いたり、みんなを喜ばせたりすることのすばらしさを感じることができる。

成果

- 菊の栽培（一人一鉢）3年生は小菊を育てます。4年生は一本立てで育て、大きな花を咲かせます。菊サポーターを講師に迎え、土作りから始まり、鉢上げ、支柱立て、芽かき、輪台付けという段階を経て、最後には菊の鑑賞会を開催します。栽培には6月から11月までの約半年かかります。天気、土の乾き具合、葉の様子から、水やりの量を日ごとに調整して行います。菊サポーターのおかげで、全員が見事な花を咲かせました。途中で枯れかかった菊もあり、どうしたらうまく育てられるかを考え、育てる難しさも学びました。
- 菊の鑑賞会
今年も鑑賞会を開きました。保護者だけでなく、地域みなさんが来校され、鑑賞を楽しみにしていただいています。地域みなさんが喜んでくださるので、自分たちの手で地域に愛される学校を築いたり、みんなを喜ばせたりすることのすばらしさを感じ取りました。
- 感謝の気持ちを伝える会
菊の鑑賞会のあと、お世話になった菊サポーターみなさんに感謝の気持ちを伝える会を開きました。児童は素直な気持ちを伝え、菊サポーターみなさんとの絆がさらに強くなります。次の年にはさらにきれいな花を咲かせようと意欲を高める機会にもなっています。

感想・課題等

- 伝統の菊づくりをグリーンプランと結び付けて行うことで、学びの広がりや深まりが多くみられました。特に、生命の営みという視点には丁寧に取り組むことができました。
- 菊に限らず、植物の栽培には気象現象など環境の影響が大きく関わります。特に最近の酷暑、猛暑にダメージを多く受けてしまいます。
- 菊サポーターみなさんの支援があってこそその取組です。人材の育成も大きな課題です。



土づくりは菊づくりの大事な取組です。



菊の鉢上げです。
作った土を鉢に入れ、菊の苗を植えます。



菊サポーターから説明を聞きます。



支柱を立てます。
大きくなってきて、楽しみになっています。



芽かきです。花を大きく育てるためにします。



輪台を付け、大きな花を支えます。



時間をかけて育ててきた分、観察にも力が入ります。
菊への愛情が学習カードから読み取れます。

学校名	南小岩小学校	対象学年と人数	みつばち学級 29名
活動名	「フラワーロードを花いっぱいにしてよう」		
指導者	学内指導者：原 敏雄 寺下 敦子 河村 俊博 田中 健三郎 田中 悠介		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- フラワーロード「花壇コンクール」に参加し、多様な花を植えたり、図工の時間を中心に、花壇の飾り付けを作成したりすることで、環境美化の意識を高める。
- 花壇整備をすることによって、植物等に関する興味・関心を高める。

成果

- 花壇が整備されたことで、よりよい環境をつくることができた。
- 花だけではなく、他の事でも校内等の環境をよくしていきたいという意識が芽生えた。
- たくさんの種類の花を植えたことで、植物の種類や世話の仕方についての知識が増えた。

感想・課題等

児童の感想

- 花を植えるのをがんばりました。友達と協力してできたのでよかったです。
- 友達といっしょにかざりを作ることが楽しかったのです。
- 花を植えるのを2回もできてうれしかったです。

課題

- 児童主体の活動が花壇のかざりを作る場面のみであったので、児童が主体的に学ぶ機会を増やしていく。
- 花に対する興味・関心が高まったので、今後、ゲストティーチャー等から自然について学ぶ機会を設定する等、環境学習の充実を図っていく。
- タブレット端末等を活用した観察や撮影を行う等、花壇を整備した後の活動を充実させていく。

○5月の活動の様子

花壇用の飾りづくり



花壇への花植え



飾り付けも完成した花壇



○11月の活動の様子

花壇への花植え



学校名	北小岩小学校	対象学年と人数	5年生：48名
活動名	北小田んぼで環境を考えよう（総合的な学習の時間）		
指導者	学内指導者：小池孝之、川田桂子、藤崎喜仁、築場博司、前田真一 学外支援者：JA鶴岡江戸川事務所様 JA鶴岡様		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 学校にある田んぼを活用し、米作りの難しさや喜びを実感する体験を通して、米作りに携わる人々の苦労や願いを知る。
- 自分たちの生活の身近にある米について幅広く知り、米のよさや大切さに気付く。
- 田んぼと自然環境の関わりに興味をもち、日本や世界が抱える環境問題や、それを解決するための方法を調べ、地球環境に関する理解を深める。

成果

- 田起こし、田植え、成長の観察、稲刈り、脱穀、粃摺り、精米、そして実際に食べるまでの一連の米作りの作業を自分たちの力で行うことで、米作りは多くの手間がかかっていることを知り、愛着や責任感をもって最後まで活動に参加することができた。
- 地球を存続させるための持続可能な社会をつくるために、自分たちにできることについて話し合い、考えを深めることができた。
- 11月の学習発表会では、今回の年間の活動を発表テーマとし、全校児童や保護者に自分たちが学んできたことやできることを大勢の人に伝え、広めることができた。

感想・課題等

- 田んぼで稲を育てるという大掛かりな学習を、グリーンプラン推進校として活動できたことで、自然と人との関わりを深める学習が充分した環境の中で行うことができた。
- 令和元年度から米作りを毎年行ってきたため、田んぼの1年間の流れが校内で共有されており、年間計画や見通しをもちやすかった。
- 様々な作業が手作業だったため、児童は非常に苦労していたが、逆にそれが昔の人の苦労を知るきっかけとなりよかった。（脱穀、粃摺り）
- ▲グリーンプランの活動費があったため、必要な道具類やよい土をつくるための肥料等を十分に揃えられたが、校内の予算だけでは不十分な面もある。
- ▲これまではゲストティーチャーとして農家の方をお招きしていたが、コロナ禍のため、直接お会いして学ぶことのできない難しさを感じた。

春



昨年の5年生が、レンゲソウの種をまいてくれました。レンゲソウには、土を肥やす効果があり、田起こしの際に混ぜ込みます。



田起こし

子供たち全員が裸足で田んぼに入り、自分の手で田植えを行いました。ぬめぬめした土に足をとられながらも、楽しそうに活動していました。



田植え

秋

稲穂が黄金色に輝く季節になり、稲刈りのときを迎えました。立派に育った稲は、他学年の子供たちも興味深そうに観察していました。



稲刈り

利き手で鎌を持ち、反対の手を逆さにして稲を掴んで刈り取ります。初めて持つ鎌に緊張している様子でしたが、真剣な眼差しで稲に向かい、しっかりと刈り取ることができました。



はさ掛け

刈り取った稲は鉄棒に掛けて乾燥させました。乾いた稲は脱穀、粃摺り、精米を行い、みんなで炊いて食べました！



来年に向けて、レンゲソウの種を蒔きました。持続可能な稲作を実践しています。

学校名	松江第二中学校	対象学年と人数	全校生徒
活動名	エコキャップ運動 道路クリーンアッププロジェクト 花壇整備		
指導者	学内指導者： 恒藤峻 坂田歩美 森涼太郎		

								
		 ○		 ○	 ○			

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

【エコキャップ運動】

- ・ペットボトルキャップを回収し、再利用することでプラスチックごみの削減につなげる。

【道路グリーンアッププロジェクト】

- ・落ち葉を掃いて、街を綺麗にし、住みやすい環境を整える。

【花壇整備】

- ・学校の緑を増やし、緑化活動への意識を高める。

成果

- ・エコキャップ運動では合計 93.17kg と前年度に引き続き 3R に貢献した。
- ・道路クリーンアッププロジェクトでは全学年の生徒が参加し、道路の美化をおこなった。
- ・花壇整備では PTA の方々や園芸ボランティア部と共に学校の花壇整備や設置を行い、学校の緑化を進めた。

感想・課題等

【エコキャップ運動】

- ・SDGs に関心を持ってもらう良い機会となった。
- ・エコキャップを再利用することができるのでとても良い活動となった。
- ・キャップを寄付するためのビニール袋をエコバックにするなどの対策をしていきたい。

【道路クリーンアッププロジェクト】

- ・協力して素早く、広範囲の清掃を行うことができたので良かった。
- ・朝の 7 時 50 分から行い、規則正しい生活を行う良いきっかけとなったので良かった。
- ・落ち葉を入れるビニール袋があり、問題になっているので、出来るだけビニール袋を使用しないような方法を検討したい。

【花壇設置】

- ・花壇整備で、地域の学校応援団の方々、園芸ボランティア部の皆さんとお花の整備や新しい花壇の設置を行うことができたので、このような地域の方々と協力して行う活動を行えるようにしていきたい。
- ・今後も水やりの分担をし、手入れをしっかりと行っていく。昼休みの校庭開放の時に花壇が荒れてしまうことがあるので、全校集会で注意喚起をするなどといった対策を検討していきたい。

【エコキャップ運動】



今年は93.17kg!!

【道路クリーンアップ】



Before

After

【花壇整備】



今年から新設部活動の「園芸ボランティア部」と「生徒会」で協力して、花壇整備やグリーンカーテンを作りました。

学校名	松江第五中学校	対象学年と人数	全学年有志 45人
活動名	ウエルカムガーデン植栽、球根植栽活動		
指導者	学内指導者： 富永 真由 吉川 硯人		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

来校する生徒や保護者、地域の皆さんをお花で気持ちよく学校に来てもらう

成果

- 生徒会の呼びかけにボランティアが集まり、花の種類や色合いを考え植栽活動を行った。
- 植栽後、昼休みに水やりを行って関心が深まった。
- 1月に、生徒会と1,2年生の学級委員に呼びかけ、球根の植栽を行うことを楽しみにしている。
- 11月5日(土)に特別活動の全国大会の会場になったが、来校者から玄関までのウエルカムガーデンが好評だった。
- HPで活動を載せ保護者、地域にも周知できた。

感想・課題等

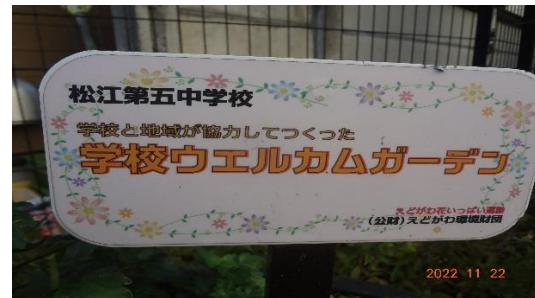
- 年に2回の植栽活動を行っているが、生徒会のメンバーが呼びかけ毎回ボランティアが集まっている。花の種類はおおよそ8種類くらい選び購入している。咲いた時の色合いや背の高さを考え、どのように植えるときれいに見えるか相談しながら植えている。1度ボランティアに参加すると都合が合えば参加する卒業生もいた。先輩から後輩へとつながる自然な流れができてきて継続できるとよい。
- 今後については、令和5年の1月6日(金)の活動予定で、春の卒業式や入学式に咲くようチューリップやクロッカス、スノードロップ等の球根を正門近くから玄関までいざなうように植える計画を立てている。
- グリーンプランは、環境学習を推進するモデル校としての位置づけになっている。そのために、年度当初に活動の趣旨を生徒会から発信し、生徒たちが少しでも環境について考えるきっかけづくりを意図的、計画的に行い意識を変えていきたい。
- 今年度区政90周年を迎える江戸川区民としても、持続可能な地域社会を目指す一員として、学校として教科や道徳、総合、特別活動の中でも環境学習を取り上げていきたい。

令和4年度の活動の様子

本校は、校門を入ってからの広場までウエルカムガーデンとして、花で訪問客を迎えるように計画的に花の植え替えをしています。



ウエルカムガーデン入口



ウエルカムガーデンボード



秋の庭



生徒会とボランティア



秋の庭



8月の植え替え



新しい土を追加



生徒と先生が協力して

学校名	小岩第五中学校	対象学年と人数	全学年
活動名	持続的環境へと変わる岩五について考える		
指導者	学内指導者：教職員全員 学外支援者：江戸川区環境部公園整備課工事係 中村様（鹿本あじさい公園）、 公益財団法人日本教育公務員弘済会東京支部様（花いっぱい運動）		

※該当するSDGsの項目に「○」を記入

目標

- 生徒会活動やボランティア活動を通して、環境を守り、育てることのできるリーダーを育成する。
- 食物や植物の栽植活動などを通して、生命の素晴らしさに気づき、自然を慈しみ大切にしようとする心を育てる。また、自然や環境、生命について考え、SDGsへの意識を高めさせる。

成果

- 生徒会本部役員を中心に、各委員会や部活動それぞれの場所で自分の力を発揮した。自分たちに何ができるか、周りの級友にどのように伝えれば興味関心を抱いてくれるかを考え、呼びかけることでリーダーとしての資質を形成することができた。
- 鹿本あじさい公園：公園の開園にあたって、看板デザイン、園内樹木の樹名板の作成、園内花壇にキンギョソウとスイセンの植え付けを行った。初めて見聞きする樹木も多く、このことを機会にタブレット端末で草花を検索することも増え、生徒の興味関心を促進することができた。園内の一部の花壇は本校生徒で管理することになり、責任をもって整備に努めようとする意識をもつことができた。
- スイセンの植え付け：今年度、小岩第五中学校は開校65周年を迎え、「一球入根」のスローガンのもと、全校生徒1人1球ずつ校庭にスイセンの球根の植え付けを行った。昼休みの時間に芽が出ていないか様子を見に行く生徒もおり、皆成長、開花を心待ちにしている。
- 2022年花いっぱい運動：チューリップの球根、ムスカリの球根を合わせて500球いただき、ボランティア部員で校内花壇に植え付けを行った。チューリップは極早生、早生、中生と開花時期や花の色が異なり、春に行われる入学式や卒業式に思いを馳せながら花の組み合わせを考えることができた。
- サツマイモの育成：校内の菜園スペース一面に立派に育ち、収穫したサツマイモは調理実習で大学芋に調理した。栽植、収穫、調理を通して、食べることのありがたさを感じることができた。
- 給食残菜ゼロ運動：期間中の残菜率は平均6.5%となり、前回の8.2%を下回ることができた。給食委員を中心に声をかけ合い、食品ロスについて考え生徒自ら残菜を減らそうとする意識が見られた。

感想・課題等

- 今年度は、以上の活動を通して学校生活での日々の学習活動に環境教育が根付き、SDGsの取り組みを推進することができた。今後もより多くの生徒がグリーンプランにすすんで取り組めるよう活動に力を入れ、生徒とともに自然あふれる学校であると実感できる学校づくりを進めていきたい。



○鹿本あじさい公園の看板・樹名板デザイン



○鹿本あじさい公園・開園式にて



○自分たちで球根を選びました



○キンギョソウの植え付け



○樹名板を樹に結びつけました



○丁寧にスイセンを植え付けました



○調理実習の様子



○立派に成長しました！

残菜〇運動 実施中!!

* 75スロー一致団結して 残菜を減らそう! *

前回の平均残菜率は 82%

* 残菜〇運動 残菜状況 *

日付	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日
主食	16.4%	5.4%	4.7%	11.1%	5.3%	5.8%
牛乳	4.0%	4.2%	5.2%	7.0%	2.3%	0%
主菜	3.3%	0.3%	主菜不足	7.0%	4.2%	0%
副菜	15.5%	14.9%	12.9%	9.0%	2.9%	9.1%
汁物	22.0%	4.6%	6.1%	6.2%	8.0%	8.0%
デザート	3.3%	主菜不足	19.8%	2.1%	9.4%	0%
1日平均	12.9%	4.5%	6.2%	6.6%	4.7%	4.1%

※ 残菜の削減に多くの生徒が協力してくれました。残菜が多くなりがちなお肉の料理で、10%削減を目指して調理しました。残菜削減の目標は、残菜を減らすことです。目標達成率を上げていきましょう。

期間中の平均残菜率 6.5% で 目標達成!!

たいはんよくたべました😊

○残菜ゼロ運動、大成功！



○花いっぱい運動 チューリップの植え付け





発行：認定特定非営利活動法人えどがわエコセンター

〒134-0091 東京都江戸川区船堀 4-1-1 タワーホール船堀 3 階

TEL: 03-5659-1651 FAX: 03-5659-1677

URL: <http://www.edogawa-ecocenter.jp/>
